



2022年11月22日

各 位

太陽生命保険株式会社
代表取締役社長 副島 直樹

太陽生命、「独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JR TT）」が 発行する「CBI認証付きサステナビリティボンド」への投資を実施

T&D保険グループの太陽生命保険株式会社（社長 副島直樹）は、ESG投資の一環として、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が発行するサステナビリティボンド（以下「本債券」）への投資を決定いたしましたのでお知らせいたします。

本債券の調達資金は、環境負荷の低減や地域の生活に必要な交通インフラの整備等に充当され、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献するものです。

なお、本債券のフレームワークは、複数の国際基準等^(※1)に適合している旨、国際的な第三者評価機関であるDNVによる検証と、厳格な国際基準を設けるClimate Bonds Initiative（CBI：低炭素経済に向けた大規模投資を促進する国際NGO）からのプログラム認証（一度の認証で継続的な債券発行が可能となる制度）をアジアで初めて取得しております。

<概要>

発行体：鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JR TT）

名称：サステナビリティボンド（R&I格付：AA+、MOODY'S格付：A1）

発行総額：130億円

償還期間：20年

SDGs：本債券によって調達された資金は、同機構の事業を通じて、SDGsの下記目標の達成に貢献します。



当社は、2007年3月に日本の生命保険会社として初めて「責任投資原則（PRI）」^(※2)に署名し、環境（E）、社会（S）、企業統治（G）の課題に十分配慮し、持続可能な社会の実現に向けた資産運用を行っています。今後とも、責任ある機関投資家として、「T&D保険グループESG投資方針」に基づき、事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献する取組みを進めてまいります。

以 上

^(※1) 気候ボンド基準3.0版(CBI)、グリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則・サステナビリティボンドガイドライン（2018年国際資本市場協会ICMA）等。

^(※2) 責任投資原則(PRI=Principles for Responsible Investment)とは、2005年に当時の国連事務総長であったコフィー・アナン氏が金融業界に対して提唱した原則です。投資の意思決定プロセスや株式所有方針の決定に際して、環境・社会・企業統治(ESG)の課題を考慮し、受益者のために、より優れた長期的な投資効果と持続的な金融市場を実現していくための行動規範です。